

Lesson 10

日英翻訳の学習のポイント

<学習のポイント>

物事にはすべてポイントがあります。ポイントを外した学習を続けていても、なかなか成果が出ないものです。このレッスンでは、日英翻訳の学習のポイントを取り上げます。ここでは、日英翻訳の基本的な翻訳手順を理解し、これまで学んできた語学力を実際の翻訳に活用するためのテクニックを学んでいただきます。

このレッスンは次の3つのセクションから構成されます。

Section 1 真意を汲み取る

Section 2 最適な表現を選択する

Section 3 専門知識と一般常識の活用

「Section 1 真意を汲み取る」では、原文（和文）の真意を正しく読み取るコツについて解説します。「日本人であれば日本語が正しく読める」というのは幻想に過ぎません。日本人が和文英訳をする際に大きな誤訳をするのは、多くの場合、「日本語の読み」がきちんとできていないことが原因となっています。日本語に対する取り組みをもう一度確認したうえで、日英翻訳に必要な日本語に関する基本的な考え方を紹介します。

「Section 2 最適な表現を選択する」では、訳文（英文）の最適な表現を上手に選択するコツについて解説します。学校英語とは異なり、実務翻訳における英訳の正解は1つではなく、さまざまな表現のバリエーションがあります。ここでは、良い英文表現について、具体例を紹介しながら解説します。

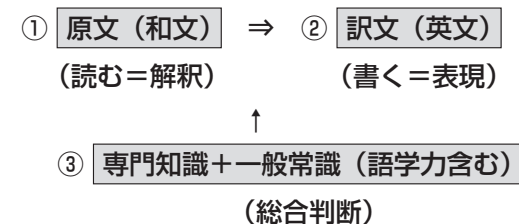
「Section 3 専門知識と一般常識の活用」では、実務翻訳において必要となる専門知識の学習法、一般常識や国語力にもとづく総合的な判断のコツについて理解を深めます。

このレッスンでは、効率的な日英翻訳の学習に必要な考え方や学習のコツを紹介します。これらはキャリアの長いプロ翻訳者でも心がけている大切なポイントばかりですので、しっかりマスターしてください。

Section 1 真意を汲み取る

1 日英翻訳の基本的な翻訳手順

ここでは、日英翻訳の基本的な翻訳手順について解説します。具体的には、以下のような3段階の作業になります。



日英翻訳とは、①日本語の原文（source）を読み、②英語で訳文（target）を書くという作業に加えて、③専門知識と一般常識を活用して総合判断を加味する、という3段階の作業になります。

そのため、日英翻訳の学習においては、「読む＝原文解釈」、「書く＝英文表現」、「総合判断」の3つのテクニックをバランスよく養成する必要があります。

さらに、実務翻訳においては、「訳出上のポイント」と呼ばれる箇所があります。これらは多くの人が訳し方に迷ったり、誤訳したり、上手下手の差が出たりする部分です。また、翻訳会社などが行なうトライアル（採用試験）でも合否の分かれ目となるものです。

簡単に言えば、訳出上のポイントをしっかり見抜いて正しく訳せるかどうかプロとアマの実力の差といえます。

日英翻訳の効果的な学習法としては、訳出上のポイントを見抜く眼を養うことです。具体的には、訳出上のポイントが上記の①～③のどこにあるかを常に意識することです。例えば、上手に訳せないと感じた場合、自分が引っかかっている問題点が、①の原文解釈なのか、②の英文表現なのか、それとも③の専門知識なのかをしっかりと区別することが大切です。

問題点が明確になれば解決策も見えてくるものです。まずはポイントを見抜く眼を徹底的に養うことが学習の第一歩といえます。

2 「真意を汲み取る」とは

日英翻訳の最初の手順は「原文を読むこと」です。その際のポイントは、日本語の精緻な読みにもとづいて、**原文の真意を正しく読み取る**ことに尽きます。簡単にいえば、原文解釈を正しく行なうことです。本テキストでは、その作業を「(原文の) 真意を汲み取る」と呼んでいます。

原文の真意を正しく汲み取るコツは、**原文の意味を1つに絞ること**です。通常、原文の真意は1つしかありません。本来、同じ日本語の文章を読んで、人によって2通りにも3通りにもなってしまうことはあってはならないものです。

ところが実際の原文(和文)を読むと、人によってまちまちの解釈が生じることがよくあります。プロの日英翻訳者の特徴は、**原文の真意を1つに絞る作業を意識的に行っている**ことです。これは、常に日本語を注意深く読み、真意を取り違えないように細心の注意を払って原文の真意を1つに特定することです。その際、「**日本語の精緻な読み**」がベースとなります。日英翻訳において、最もプロとアマの差がつく部分はこの「日本語の精緻な読み」といわれています。

「日本人なら日本語が読めて当たり前」というのは幻想に過ぎません。多くの人は、母国語である日本語を無意識のうちに読んでいます。そのため、日本語で書かれた文章を読んで、漠然と分かったつもりになったり、内容を取り違えて読んでいたり、内容を正確に理解していなかったりしても、あまり明確に自覚することがありません。

たとえば、「使用する、利用する、使う、用いる」といった動詞の意味をきちんと区別して、正しく使い分けている人はどれだけいるのでしょうか？

これらの4つの言葉を見て「なんだ、同じ意味じゃないか」と思う人は日本語に対して鈍感になっている証拠です。

言葉には無駄なものは一切ありません。**言葉が違えば意味も違う**のです。当然、それぞれの用法(言葉の使い方)も違います。

実務翻訳において日本語を英語に訳す際には、通常よりもはるかに精密な日本語の読解力が必要となります。以降のページでは、こうした基本的な日本語に関する簡単なクイズをいくつか取り上げます。

これらのクイズを通して、日本語の**言葉に対する感受性(word sensitivity)**を高めることが大切です。これまで無意識に読んできた日本語を意識的に読むように心がけるだけでも、原文の真意を汲み取るための絶好のトレーニングとなるでしょう。

3 日本語を点検しよう

ここでは、「真意を汲み取る」ために最小限必要な日本語の知識を点検してみましょう。

3-1 「は」と「が」の違い

Quiz: 日本語の「は」と「が」の違いを説明してください。

説明記入欄:

解答解説

「は」と「が」の区別は日本語の基本中の基本です。日本人なら無意識のうちに「は」と「が」を正しく使い分けているものですが、その用法を明確に説明できるようにしておくことが大切です。

以下のように①**重要情報**という観点で区別する、②**質問に対する返答**として区別する、という2通りの区別をしておくとうわかりやすいでしょう。

- (1) 「AはBである」⇒**重要情報はB**。
- (2) 「AがBである」⇒**重要情報はA**。
- (3) 「AはBです」⇒「**Aは何ですか?**」という質問に対する返答。
- (4) 「AがBです」⇒「**何がBですか?**」という質問に対する返答。

例:

- (1) 「**アインシュタイン**は物理学者である」⇒重要情報は「物理学者」。
- (2) 「**J.ワット**が蒸気機関の発明者である」⇒重要情報は「J.ワット」。
- (3) 「**ヤンバルクイナ**は鳥類です」⇒「ヤンバルクイナは何ですか?」に対する返答。
- (4) 「**肥満**が高血圧の原因です」⇒「何が高血圧の原因ですか?」に対する返答。

なお、上記(3)(4)は、「何」の代わりに「どこ、いつ、だれ」などを用いた質問に対する返答である場合もあります。

3-2 スーパー助詞「は」の用法

Quiz : 以下は助詞「は」の用法の説明文です。[]内に適切な言葉を入れてください。

- (1) このホームページは、デザインがいい。
⇒ このホームページ [] デザインがいい。
- (2) このホームページは、とても面白い。
⇒ このホームページ [] とても面白い。
- (3) このホームページは、ブラウザで閲覧した。
⇒ このホームページ [] ブラウザで閲覧した。
- (4) このホームページは、目新しい情報がなかった。
⇒ このホームページ [] 目新しい情報がなかった。
- (5) このホームページは、得られるものがなかった。
⇒ このホームページ [] 得られるものがなかった。

解答解説

「は」という助詞は「スーパー助詞」という異名をもつほど多くの用法があります。上記は基本的な用法です。

「このホームページは」の助詞「は」の用法を以下のように置き換えられます。

- (1) このホームページのデザインがいい。
- (2) このホームページはとても面白い。
- (3) このホームページをブラウザ画面で閲覧した。
- (4) このホームページには新しい情報がなかった。
- (5) このホームページから得られるものがなかった。

実際は、上記以外にも多数の用法があり、英語のisとはくらべものにならないほど多くの用法があります。

(1)–(5)の「は」に相当する部分をそれぞれ英訳してみると、(1)はthe design of this homepage、(2)はis、(3)は目的語のthis homepage、(4)はin this homepage、(5)はfrom this homepageのようにそれぞれまったく違った英語表現となります。

3-3 類義語の使い分け

Quiz : 「使用する、利用する、使う、用いる」という動詞の使い分けについて説明してください。

説明記入欄：

解答解説

日本語の類義語を区別することは、正しく日本語を読むための基本です。よく使う簡単な用語でも、無意識に使っていると意外と大きな誤用をしていることがあります。それぞれの用法をしっかりと説明できるようにしましょう。

以下の(1)–(4)が一般的によく用いられる定義です。

- (1) **使用する**：何らかの目的を達成するために、何かを直接的に使うこと。
- (2) **利用する**：ある目的のために、何かを役に立てたり、間接的に用いること。
- (3) **使う**：(1)の口語的用法。平易で親しみやすい印象を与える。
- (4) **用いる**：(1)と(2)の中間的用法。多義的なニュアンスの表現。

上記の定義にもとづくと、以下の文はすべて誤りとなります。

「消毒用アルコールを利用して材料を洗浄する。」

⇒ 直接アルコールをかけて洗浄するので「利用して」ではなく「使用して」が正しい使い方です。

「この装置では、当社独自の手法を使用している。」

⇒ 手法、原理、概念、自然現象などはすべて間接利用なので、「利用している」とするのが正しい使い方です。

「このお絵かきソフトは、ユーザーのマウスの動きを使用して自動的に描画する。」

⇒ この場合、マウスの動きを直接使うのではなく、マウスの動きを電気信号に変換して用います。したがって「使用して」は誤りで、「利用して」が正しい使い方となります。

日本語の真意を汲み取るには、似たような言葉の意味をきちんと区別することが大切です。「は」と「が」の使い方を意識するのと同様に、日本語の語句の意味を1つ1つ吟味して、それぞれの意味の違いを明確に区別するよう心がけることが学習の第一歩です。